

みんなとともに笑顔いっぱい — 創立百周年 その先の未来へ みんなとともにスマイルミッション —



# みんなとともに



「文武両道」という言葉がありますが、「学力面でも優れた成果を出したい」と常々思っています。そのような中、うれしいニュースが届きました（詳しくは下の記事をお読みください）。でも、大切なことは「結果」ではなく、そこに至る「過程」です。「いまここ学習室」で学ぶ子どもの数が増えました。これからも「自ら学ぼうとする気持ち」を高めていきたいと考えています。



## 「県算数・数学ジュニアオリンピック」優秀学校賞 受賞

10月20日に行われた「県算数・数学ジュニアオリンピック」に、6年生4名、5年生1名が参加しました。この度、その結果が公表され、本校が「優秀学校賞」を受賞することとなりました。「陸上の清明」とともに「学力の清明」としても名を馳せることとなり、大変うれしく思っています。

なお、個人の結果は、次のとおりです。おめでとうございます。

「銀メダル」 6年 中濱 亜子

「奨励賞」 6年 斉藤 光希

## 教職員から児童への「年賀状等の取り扱い」について

本校では、「児童名簿」を4部作成し、「校長室」「職員室（教頭用・職員用）」「事務室」で保管しています。個人情報の漏洩を防止するために「校外への持ち出し」はしていません。

そのようなことから、教職員が「住所等の情報」を持ち出しすることはできませんので、「教職員から児童へ年賀状等を出すことはしない」ということにさせていただきます。

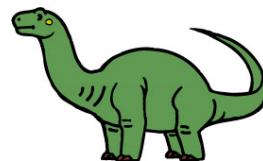
今後も、「不祥事の防止」に努めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

## 【校長のつぶやき】 その19 「“イチョウの実”は、なぜ臭うのか」 — 校長の自由研究 その2 —

「学校だより 第26号」で、「イチョウの実（ギンナン）」の臭いについて調べたことを載せたところ、反響があり、次の情報を新たに得ることができた。（お子さんを通じて、新聞の記事をいただいた。感謝!）

<出典> 朝日新聞 「サイエンス on Saturday（2019年11月9日）」

なんと、「イチョウの実（ギンナン）」の臭いを好きな生き物がいた → それは、「恐竜」だったらしい。



いまのイチョウの祖先と考えられる植物は、2億4500万年くらい前に現れた。それから種類を増やしながらか、ジュラ紀や白亜紀といった時代にかけて、オーストラリアなど南半球も含む世界中に広まった。

カナダで見つかった恐竜の糞の化石の中にギンナンがあった。ほかの哺乳類も食べていたが、恐竜がギンナンを食べて移動先で糞と一緒に種をまくことで、イチョウが広まった可能性がある。

恐竜が絶滅したあとは、イチョウもだんだんと衰退して、一時は絶滅寸前までいった。直接の原因は、寒くて乾燥した気候に変わったせいだが、ギンナンを食べる恐竜や動物がいなくなり、生える場所を広げられなくなったのも関係があるようだ。

中国にわずかに残っていたものを人間が増やして、日本にも千年くらい前に来た。いまでも、タヌキなどの一部の動物はギンナンを食べるらしい。

なお、イチョウが恐竜に食べてほしくて、この臭いを出すようになったのかは、まだ証拠がなくてよく分かっていない。

・・・ということで、この先は、子どもたちの中から「学者」が出て明らかにしてくれることを期待している。